



かけはし

240号

2025年10月

ご自由にお持ちください

特集

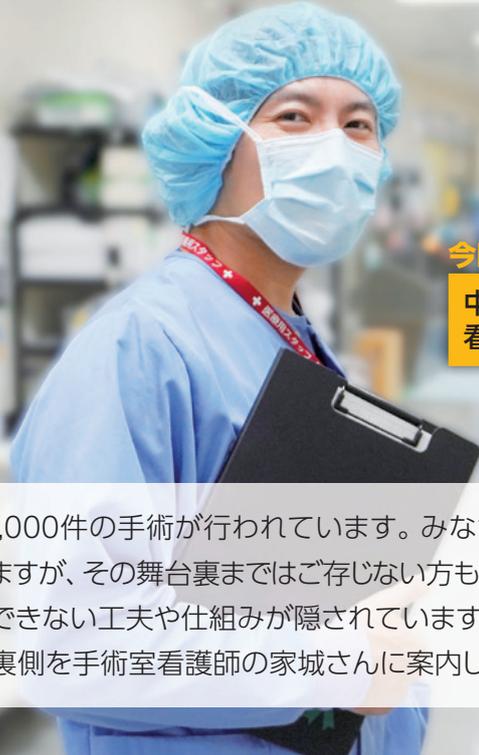
病院潜入レポート 手術室の裏側をのぞいてみた

リハビリ通信

代謝を高める日々の運動 生活習慣病予防の第一歩



病院潜入レポート 手術室の裏側をのぞいてみた



今回の案内人

中央手術室
看護師の家城さん

当院の手術室では年間約7,000件の手術が行われています。みなさまのなかにも実際に当院で手術を受けた方がいらっしゃると思いますが、その舞台裏までをご存じない方も多いのではないのでしょうか。手術室には、普段はなかなか見ることができない工夫や仕組みが隠されています。今回は特別に広報担当者が手術室に潜入。知られざる手術室の裏側を手術室看護師の家城さんに案内していただきました。

Q

そもそも手術室って
どこにあるのですか？

A

4階にあります。手術室は清潔な環境を確保するために外部の出入りが少ない中層階に配置されることが多いです。また上層階にある病棟と下層階にある救急や検査部門のちょうど中間に位置し、患者搬送の動線を短縮できるという観点から当院においては4階が選ばれています。



Q

全部で何室ありますか？

A

当院には10室の手術室があり、予定手術のほか緊急手術にも対応できるように部屋の空き状況とスタッフの配置を調整しています。



手術中は赤い
ランプが点灯します



Q

手術室にはどんなスタッフが
働いていますか？

A

医師や看護師のほかにも薬剤師、手術機器を管理する臨床工学技士、撮影や透視をサポートする放射線技師などが働いています。



手術室で働く放射線技師を発見しました。執刀医が直接見えない部分を撮影し、映像で確認できるようにします。

麻酔科では手術の前に診察を行い、安心して手術を受けられるように麻酔について丁寧な説明とリスク評価を行っています。



特に手術室の中を見学させていただきました!

こちらは脳神経外科の手術室です。手術台を取り囲むように数多くの器械が配置されています。これらの器械とそれを扱うスタッフの連携によって安全で精度の高い手術が可能となっています。



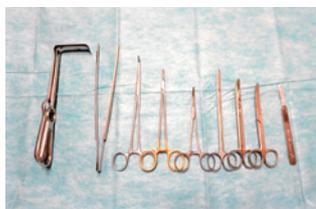
Q これらの器械・設備の役割を簡単に説明していただけますか?

A 手術台は、手術中に患者さんが横たわる場所です。その手元を照らすのが無影灯で、これらはどの手術室にも共通する基本設備です。麻酔器は心拍数や血圧に応じて、麻酔科の医師が患者さんの状態を管理するのに使います。ナビゲーションシステムは体内の手術器具の正確な位置を車のナビのようにリアルタイムで表示できる装置です。手術用顕微鏡は精密な作業に役立ちます。電気メスや超音波手術器は執刀医が操作し、組織の切開や止血に使用します。当院には用途に応じて使い分ける4台の電気メスがあり、整備・管理は臨床工学技士が担当しています。



メスやクーパーなどの細かい器具は、看護師が術式に合わせて準備しています。このように、手術は多職種連携によって成り立っています。

医療ドラマなどでよく登場する道具を集めてみました! 皆さんは名前わかりますか?



右からメス、クーパー、メイヨー、メツツェン、コッヘル、ダイヤモンド持針器、ケリー、長鑷子、筋鉤



Q 手術支援ロボットは導入されていますか?

A 当院では、泌尿器科、消化器外科、婦人科などのがん手術で低侵襲かつ高精度な手術を可能にする「ダビンチ」と「センハンス」、膝関節手術に特化した「ベリス」の3種類のロボットを導入しています。



ロボット手術の件数も年々増加しており、昨年度は約300件の手術を実施しました。このようにさまざまな技術を用いて手術を行っています。

手術室の裏側には、さまざまな技術とそれを扱うスタッフの存在がありました。現在ではロボット手術や新たな器械の導入により、体に負担の少ない手術も可能になっています。多職種に渡るチームワークとこういった技術の積み重ねによって、手術が安全に行われ、患者さんが安心して治療に臨める環境が整っていました。

リハビリ通信

代謝を高める日々の運動 生活習慣病予防の第一歩

リハビリテーション技術科 作業療法士 太田 遊野

代謝と健康

みなさんは普段、運動をしていますか？仕事や家事に追われる生活の中で、なかなか運動する時間を作れない方も多いと思います。運動には体力をつけるだけでなく、私たちの体にとって大切な「代謝」を高める効果があります。代謝とは、食事から摂取した栄養素を分解し、体を動かすためのエネルギーを作り出す仕組みのことです。この代謝が落ちてしまうと、太りやすくなったり、糖尿病や脂質異常症などの生活習慣病のリスクも高まってしまいます。

基礎代謝を高める「有酸素運動」×「筋トレ」

運動を継続することで、筋肉量が増え基礎代謝が上がり、脂肪が燃焼しやすくなります。さらに、血糖やコレステロールのコントロールにも良い影響を与えます。特におすすめなのが「有酸素運動」と「筋力トレーニング」の組み合わせです。有酸素運動はウォーキングやジョギング、自転車こぎなど、息が少し弾む程度の運動を20～30分続けるのが効果的です。筋力トレーニングはスクワットや軽いダンベル運動などで週2～3回を目安に行くと、代謝の維持に役立ちます。体力に自信がない方は、まずは週2回、10分程度からでも十分効果があります。大切なのは「無理なく続けること」です。

まずは週2回を目安に



有酸素運動 20分～30分



筋力トレーニング 10分

運動が苦手な方はストレッチも効果的

また、ストレッチも代謝を高めるサポートになります。ストレッチは激しい運動ではありませんが、血流を改善し、自律神経のバランスを整え、筋肉の柔軟性を高めることで、体を動かしやすくしてくれます。就寝前や入浴後など、リラックスした時間に取り入れると効果的です。

日常生活でできる工夫

さらに、日常生活の中でも「エレベーターではなく階段を使う」「ちょっとした買い物は徒歩で行く」など、ちょっとした工夫で活動量を増やすことができます。こうした習慣の積み重ねが代謝アップにつながり、健康な体をつくれます。

代謝を高めることは、生活習慣病の予防だけでなく、毎日を元気に過ごすためにも大切です。有酸素運動・筋力トレーニング・ストレッチを組み合わせ、日常生活に取り入れてみましょう。無理なく続けることが、健康づくりへの近道です。





新任医師紹介



①大学卒年 ②専門分野 ③趣味 ④自己PR ⑤抱負



麻酔科 専攻医
藤井 瑛子

- ① 令和4年卒
- ② 麻酔科
- ③ 旅行、蚤の市巡り
- ④ 京都府立医大病院から異動してまいりました。市中病院ならではの症例にも取り組みながら、患者さんが安心して手術を受けられるよう尽力します。
- ⑤ 患者さんにとって最良の麻酔が提供できるよう、他の医療スタッフと連携を大切にしたいです。

よろしくお願ひします!



News & Topics

ロボット手術センター市民公開講座を開催しました

8月23日(土)、栗東芸術文化会館さくら中ホールにて、市民公開講座「医療の最前線～ロボット手術のいま～」を開催しました。当日は87名の方にご来場いただき、当院の専門医がロボット手術の歴史や現状、最新の取り組みについてわかりやすく解説しました。

講座では、泌尿器科、外科、産科・婦人科の3領域に分けてロボット手術の実態が語られました。ロボット手術の対象となる病気や部位、従来の手術との違いについても解説され、患者さんにとってのメリットが具体的に示されました。さらに、実際の手術映像やイメージ図を使った説明もあり、より視覚的にロボット手術を理解できる貴重な機会となりました。

講座後、参加者からは「もし自分が同じ病気にかかったらロボット手術を受けたい」という声も寄せられ、ロボット手術がより身近な医療であ



泌尿器科
鴨井 和実医師



外科
小林 博喜医師



産科・婦人科
大熊 優子医師

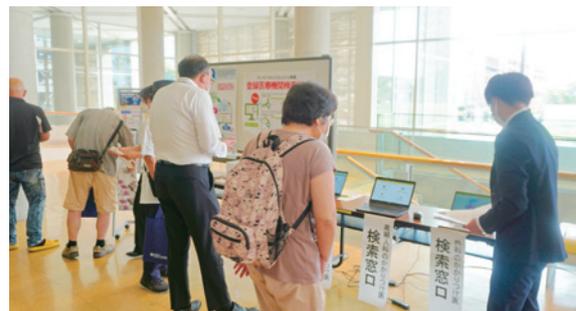
ることを実感していただけた。

また、会場ロビーには「かかりつけ医検索ブース」を設置し、地域医療連携課からかかりつけ医の検索方法や地域医療機関の情報提供を行いました。講座で学んだ知識とあわせて、自分に合った医療機関を身近に探せる方法を体験していただきました。

今回の市民公開講座を通して、地域の皆さまにロボット手術の魅力と可能性を知っていただき、健康と安心につながる一助となれば幸いです。



会場風景



かかりつけ医検索ブース

「顔の見える」連携で、地域の皆さまにより安心の医療を

8月2日(土)、ホテルボストンプラザ草津にて、地域の開業医の先生方と当院の医師が集まる「なでしこ地域医療連絡会」を開催しました。湖南・甲賀医療圏の医師112名(当院医師含む)が互いに顔を合わせて、より良い地域医療の実現に向けて意見を交わしました。

最初に当院の各診療科の取り組みについて小児科の國津智彬医師、脳神経外科の横矢重臣医師、脳神経内科の藤井明弘医師、循環器内科の西地稔幸医師、消化器内科の石田紹敬医師の5名がプレゼンを行いました。その後、自由に意見交換する場が設けられ、参加された先生方からは「直接話すことで病院の取り組みがわかり患者さんを紹介しやすくなった」「新しい治療の情報を得られた」といった声をいただきました。

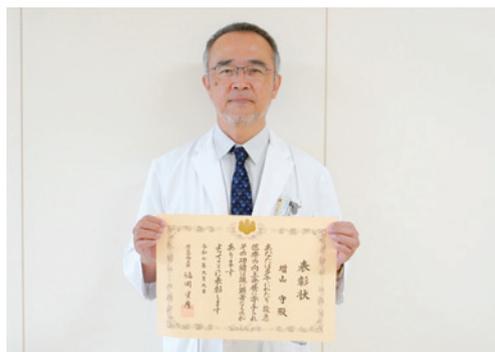
この連絡会を通じて、日頃から地域の医療を支えてくださっている先生方と「顔の見える」関係を築くことができました。今後も地域医療の充実に向けて、地域の先生方との連携を大切にまいります。



令和7年度救急医療功労者として厚生労働大臣表彰を受賞しました

9月9日(火)、当院の増山守副院長が「令和7年度救急医療功労者に対する厚生労働大臣表彰」を受賞されました。「救急医療功労者」は、地域の救急医療の確保や救急医療対策の推進に貢献した個人や団体に贈られる名誉ある表彰です。増山副院長は救命救急センター長として、当院の救急医療体制の運営・整備において中心的な役割を果たしてきたことが評価されました。受賞にあたり増山副院長は、「この度の受賞は私個人の力によるものではなく、救急医療に携わるスタッフ全員の努力の賜物です。今後も地域の皆さまに安心していただける救急医療の提供に尽力してまいります」と述べました。

今回の受賞は、増山副院長個人の功績であると同時に、当院が長年にわたり地域救急医療に取り組んできた成果が広く認められた証でもあります。今後も当院は、地域の救急医療の充実に努めてまいります。



おめでとうございます!



10月23日(木)は創立記念日のため休診となります

いつも当院をご利用いただき、ありがとうございます。当院は10月23日(木)をもって創立88周年を迎えます。つきましては、**10月23日(木)を創立記念日として、外来診療を休診とさせていただきます。**なお、救急外来は24時間対応しておりますので、緊急の場合はご利用ください。皆さまにはご不便をおかけしますが、何卒ご理解いただけますようお願い申し上げます。



栗東市民公開講座のお知らせ

11月15日(土)、栗東市在宅医療介護連携推進センターでは、栗東市民公開講座「最期まで自分らしく～在宅での看取りを考える～」を開催いたします。昨今、病院だけではなく施設や在宅での医療や看取りが増えつつあります。本講座では、現場の看護師や医師からの事例や栗東市にある在宅看取りを支える医師同士のネットワークについて紹介します。ご興味のある方は下記の電話番号、FAXまたはQRコードからお申し込みください。皆さまの参加を心よりお待ちしております。

講演テーマ：「最期まで自分らしく～在宅での看取りを考える～」

	内容	講師
講演 ①	事例紹介	こびらい生協診療所 西澤 寛貴 医師 栗東市訪問看護ステーション 大西 幸子 看護師
講演 ②	栗東市の在宅医療を支える 医師ネットワークの仕組みについて	あらき内科クリニック 新木 真一 医師

〈日時〉令和7年11月15日(土) 14:00～15:30

〈会場〉済生会滋賀県病院 5階 なでしこホール
住所:栗東市大橋2丁目4-1

〈定員〉50名(※申込先着順)

〈費用〉無料

〈共催〉栗東市在宅医療介護連携推進センター
栗東市長寿福祉課

〈申し込み/問い合わせ〉

栗東市 長寿福祉課 地域支援係

TEL:077-551-0198

FAX:077-551-0548



▲申し込みフォーム

当院では無料低額診療事業を実施しています

詳細は当院ホームページをご確認ください。



▲HPはこちら

かかりつけ医をもちましょう

「かかりつけ医」は患者さんやご家族が、身近に日常的な治療及び健康管理について相談できるお医者さんです。体調の変化で気になることを気軽に相談できる関係性を築くことで、病気の早期発見や予防につながります。自宅や職場の近くにかかりつけ医をもっていただくことをお勧めします。



▲HPはこちら

滋賀県守山市勝部5丁目6番34号
(スギ薬局守山東店の道路挟んで隣地)
TEL. 077-518-8778

【診療科目】

小児科・アレルギー科・予防接種・乳幼児健診

【休診日】

水曜日・日曜日・祝日

【診療時間】 ※予約優先制

受付時間	月	火	水	木	金	土
午前診療 9:00~12:00	●	●	/	●	●	●
(予防接種・乳幼児健診・アレルギー負荷試験)						
午後診療 14:30~16:30	●	●	/	●	●	/
夕方診療 16:30~19:00	●	●	/	●	●	★

★土曜午後は、14:00~17:00

守山市

なかじま小児科アレルギークリニック

院長 中島 亮 先生

笑顔と安心を、すべての子どもに

アレルギーは、子どもたちにとってとても身近な病気です。その一方で、治療や日々の対応に悩まれるご家族も少なくありません。

私はこれまで約20年間、この地域の病院で小児のアレルギー疾患、特に食物アレルギー、アトピー性皮膚炎を中心に診療を行ってまいりました。

もっと身近に、気軽に相談や診療ができる場所をつくりたい——そんな思いから、このたび「なかじま小児科アレルギークリニック」を開院いたしました。

これまでの経験と専門知識を活かし、アレルギーの診療はもちろんのこと、風邪や発熱、予防接種など、小児科全般にわたる幅広い相談に対応いたします。

お子さまやご家族にとって安心して通える、温かいクリニックを目指し、スタッフ一同努めてまいります。

お子さまの健やかな成長と一緒に見守らせていただければ幸いです。どうぞお気軽にご相談ください。



大津市

瀬田しもぞの眼科

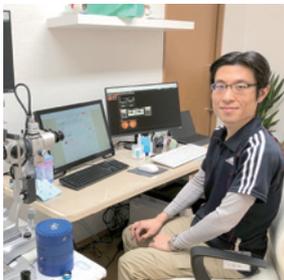
院長 下園 正剛 先生

～地域の皆様の目を守る基地として、優しく温かいクリニックを目指します～

当院では、基幹病院で数多くの手術や診療に携わってきた経験を活かし、「地域の皆様に質の高い眼科医療をお届けしたい」という思いで日々診療にあたっています。一般的な眼科診療に加え、お子様の視力や斜視・弱視の治療、近視進行抑制治療にも対応。さらに、日帰りでの白内障・網膜硝子体手術や、緑内障・網膜疾患に対するレーザー治療、抗VEGF薬注射など、専門的な治療も行っています。

診察や手術の前には丁寧に説明し、患者様とご家族の不安を少しでも和らげられるよう心がけています。また、無料送迎サービスや広い駐車場も備え、どなたにも通いやすい環境を整えています。

これからも、皆様とそのご家族の「見える喜び」を大切に、やさしく寄り添った医療を提供してまいります。



▲HPはこちら

滋賀県大津市大将軍3丁目24番6
TEL. 077-545-8000

【診療科目】

眼科

【休診日】

木曜日(午後)・土曜日(午後)・日曜日・祝日

【診療時間】

受付時間	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	●	●	●	●	●	●
15:30~18:30	●	★ 手術日	●	/	●	/



病院理念

私たちは、済生会の「救療済生」の精神に基づき、安全で質の高い医療の提供と、心温まるサービスを実践し、地域の皆様の安心と幸せな未来へ貢献します。

かけはしNo.240 2025年10月

発行元 社会福祉法人 済生会滋賀県病院

〒520-3046 滋賀県栗東市大橋二丁目4番1号

TEL (077) 552-1221 (代) URL <https://www.saiseikai-shiga.jp/>